

次第

- 令和5年度 第1回 富士見町地球温暖化対策推進委員会 -

日時：令和5年7月11日（火）13：30～

場所：富士見町役場 302・303会議室

1. 開 会
2. 挨拶
3. 委員会設立の背景及び委員会設置要綱の説明
4. 委嘱書の交付
5. 自己紹介
6. 議 事
 - (1) 委員会の役割及び町の目指す姿について
 - (2) 富士見町脱炭素ビジョンの概要について
 - (3) 意見交換
 - (4) その他
7. その他
8. 閉 会



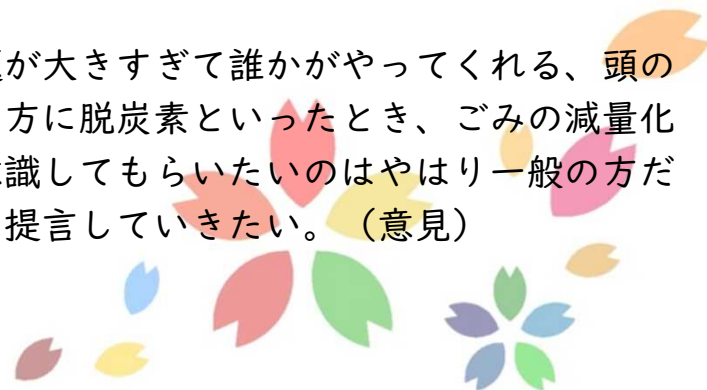
議事録

6. (1) 委員会の役割及び町の目指す姿について

事務局より、委員会の役割及び町を目指す姿について説明し、質疑応答を行いました。（資料①）

<質疑応答・意見>

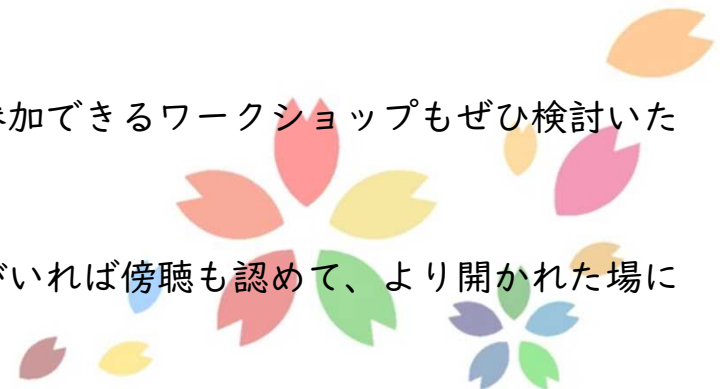
- ・委員会の役割については非常に明快になっていると思う。計画を作りっぱなしにするのではなく、実施においても責任を果たしていくことが大事だと思う。（意見）
- ・資料①-P6の目指す姿は決定事項か。（質問）
⇒これは現時点の想定。委員会の中で項目の追記修正等の意見があれば柔軟に対応したい。（回答）
- ・地球温暖化というと世界の気候危機を指すと思うが、本委員会では富士見町で実現可能なことを提言していく認識でよいか。（質問）
⇒全世界で地球温暖化対策に取り組む中、国や県は道筋を示して支援を行っているが、実際に実行するのは私たち町民・事業者である。そういう意識についてもこれから醸成していきたい。（回答）
- ・町民の意識というのはとても大事なことだと思う。ただ、問題が大きすぎて誰かがやってくれる、頭のいい人たちがやってくれるだろうと大勢が思っている。一般の方に脱炭素といったとき、ごみの減量化やエコカーなど、そんな簡単なことしかない。しかし、一番意識してもらいたいのはやはり一般の方だと思う。だからこそ、その人たちに響くような具体的な内容を提言していきたい。（意見）



議事録

6. (1) 委員会の役割及び町の目指す姿について

- ・ 計画では、2050年ゼロカーボンを目指すとなっているが、企業は、自社のCO2排出量ゼロという枠は作れると思う。しかし、一般家庭も含めてゼロカーボンを目指すというのは非常に難しいと感じる。富士見町地球温暖化対策推進委員会の目指すゼロカーボンは、どこまでの範囲でゼロカーボンを目指すものか。(質問)
⇒先ほどのご意見でもあったように、一般の方の意識はまだそこまで高くなく、国が、偉い人が、誰かが何とかしてくださると思っている方が大半だと思う。しかし、こういった皆さんにもまずはゼロカーボン・カーボンニュートラル・脱炭素という言葉を知っていただくことから始め、一般家庭も含めて町全体で2050年ゼロカーボンを目指すたい。(回答)
- ・ 自治体の実行計画では、計画は立派だが実行されないことがありがち。町民も企業も再エネを増やすなら、その担い手の育成も必要。より幅広い町民の巻き込み方を考えていく必要があると思う。(意見)
- ・ 今年度この委員会では、町民や企業参加型のワークショップ等の計画はあるか。(質問)
⇒本年度は、町民向けの講演会を計画している。(回答)
- ・ 講演会の検討ありがたい。また、加えて町民が自分事として参加できるワークショップもぜひ検討いただきたい。(意見)
- ・ 委員会の議事録は公表されるということだが、希望する町民がいれば傍聴も認めて、より開かれた場にしたらどうか。(意見)



議事録

6. (1) 委員会の役割及び町の目指す姿について

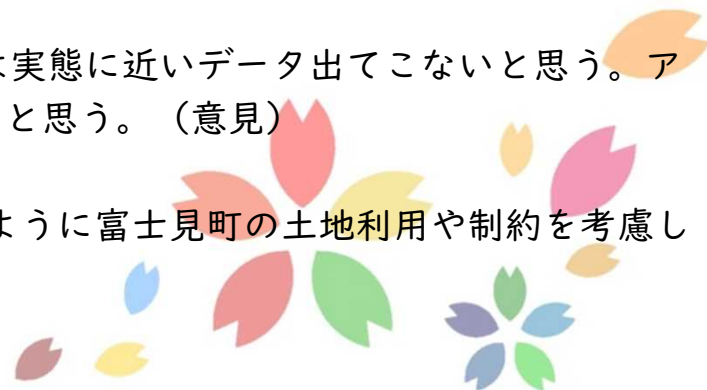
- ・この計画の段階で、委員会に開かれたイメージがあれば、その後の取組みに対しても非常に有効だと思う。また、意識の醸成という意味では、町が掲げるビジョンや計画は限られた人しか意識をしていないのが現状。町の施策を町民一人ひとりに届けるのは、難しい部分ではあるが、町民の方に実際参加してもらうのは有効な手段だと思う。（意見）
- ・開かれた委員会は私も賛成。ただ、この会議を傍聴したいというのは関心がある人だが、全く関心のない人や、逆にこういった話題が嫌な人にも知ってもらう必要がある。最近の欧州やアメリカの流行は気候市民会議を開催し、関心の有無に関わらず指名制で参加していただき、自分の問題としてみんなで考えるという取組みがある。東京や他の地方でも事例はあるので、そういった取組みも検討できれば面白い。（意見）



elDesign株式会社（富士見町脱炭素ビジョン策定支援業務委託の請負者）より、富士見町脱炭素ビジョンの策定に係る概要を説明し、質疑応答を行いました。（資料②）

<質疑応答・意見>

- ・国や県の政策で富士見町の排出量がどれだけ減らせるかを明確にした上で、富士見町が自身でコントロールできる追加的な施策を検討するとよいと思う。町民が本当に担わなければならない部分を明確にしていく必要がある。（意見）
- ・資料にある富士見町のCO2排出量は、基本的に県の推計値の按分で算出されているので、やはり町民にとって手応え感のあるKPIや指標が必要。推計の上の数字の増減はあまり意味がないので、ビジョン策定の際には自分ごとになるような指標や表し方をぜひ検討してもらいたい。（意見）
⇒おっしゃる通り、国や県の施策の中には、自治体や地域で実行することが前提に含まれていることがあり、その切り分けは難しいが大事だと思う。そこは明確にしたい。（回答）
- ・先ほどの意見と重複するが、この資料のCO2排出量の推計では実態に近いデータ出てこないと思う。アンケートを取るなら、なるべく実態に沿う調査をした方がよいと思う。（意見）
- ・再エネもREPOSを使えばざっと出るが、ここに書かれているように富士見町の土地利用や制約を考慮して利用可能量算出するのは非常に重要だと思う。（意見）



- ・特に野立ての太陽光については、現在、町内全域が抑制区域となっており、その種の制約をどう考慮するのか。また、現在、富士見町にある太陽光発電施設のほとんどは、地域外の企業が所有しており、私たちの推計では、90%以上の利益が地域外に出ている。それではこの地域の経済の活性化に繋がらないので、いかに富士見町で経済を循環させるかといった、経済分析も連携してできればと思う。（意見）
- ・富士見町の特色はやはり日照だと思っている。先ほど話があった省エネや断熱改修も大事だが、太陽熱温水の利用もぜひ検討して欲しい。（意見）



議事録

6. (3) 意見交換

委員の皆さまに、各企業や団体の取組みについて紹介をいただき、意見交換を行いました。

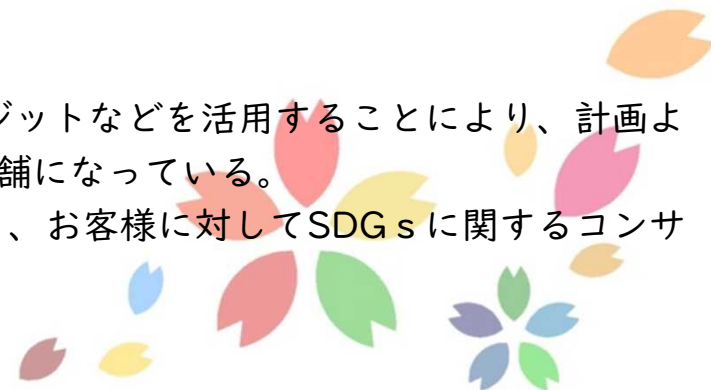
<各企業・団体の取組み>

○カゴメ株式会社（富士見工場）

- ・ジュース製造工程で使用する蒸気を作る燃料を重油からLNGに変更した。これにより、燃焼時に発生するものがCO2と水分のみとなり、CO2は隣にあるハケ岳みらい菜園のトマト栽培用のハウスへ送ることで、排出量を削減している。残念ながら省エネ法では、CO2排出量の削減にはカウントされないが、CO2の有効利用という面で注目を集めている。
- ・工場の屋根に1100KWの太陽光パネルを設置し、電気購入量を削減している。また、購入する電気もCO2フリーに切替えた。
- ・熱利用に関しては、バイオマス処理による発酵メタンを燃焼させて蒸気利用している。バイオマス原料は、ジュース製造用の不良原料や廃棄になったジュースパック、ハケ岳みらい菜園から出る不良果などを有効利用している。

○八十二銀行（富士見支店）

- ・先般、CO2排出量のネットゼロを達成した。カーボンプレジットなどを活用することにより、計画より1年前倒しで達成。昨年移転した富士見支店もネットゼロ店舗になっている。
- ・通常営業の中では、紙の削減など地道な取組みを続けており、お客様に対してSDGsに関するコンサルティング支援なども行っている。



議事録

6. (3) 意見交換

○諏訪信用金庫（富士見東支店・富士見支店）

- ・電気や紙の使用量を極力減らし、SDGsにも積極的に取り組んでいる。
- ・FIT期間を終える方への支援や、太陽光発電専用ローンなど再エネの普及に繋がる融資も積極的に行っている。

○株式会社みのり建設

- ・20年程前から環境事業として、富士見町の学校給食や諏訪湖の水草を堆肥化する事業を行っている。これらを焼却せずに堆肥化して地域内の農地にできるだけ還元したい。
- ・最近では、森林整備をした際にこれまで利用されてこなかった枝葉を固形化して燃料として使うブリケット事業を開始した。ブリケットは、直径5cm長さ30cm程度の薪の代替材で、日本ではまだ流通量が少ないが、別荘地区など需要はあると思う。
- ・ハケ岳みらい菜園では、これまでトマト栽培用の液化CO₂をタンクローリーで買ってきていたが、カゴメからCO₂の供給を受けることで、購入する液化CO₂のコストを減らすと共に、輸送に係るCO₂の削減にもなっている。

○ヤマト運輸株式会社（諏訪富士見営業所）

- ・都市部はEVの導入が始まっている。しかし、県内は山間地域が多いため効率面で今のところは松本市内に限られる。
- ・クール宅急便の冷却方式の効率化や、文書のリサイクルにも取り組んでいる。
- ・現場では、ドライバーの運転技術でCO₂排出量がかなり違ってくるので、管理・教育にも力を入れている。

議事録

6. (3) 意見交換

○諏訪森林組合

- ・ 林業でCO2削減といえばやはり森林整備を進めることだと思う。以前は切捨間伐が主流だったが、10年程前から建材利用のため搬出されるようになった。最近では、間伐よりも主伐再生林に重点を置いている。ただ、再生林についてはこの地域だと獣害対策が必要で費用がかかることもあり、販売単価の良いときに切出し、その収入を利用して植栽する必要がある。
- ・ その他の事業としては、他地域の森林組合でペレット工場を持っており、バイオマス燃料としてペレット等を販売している。

○富士見財産区管理会

- ・ 富士見町が持つ資源として、CO2の吸収源である森林の機能を有効に使うべき。やはり30年、40年の樹齢迎えると吸収量が極端に落ちる。そこに向けて伐採、植林などについても考えたい。

○富士見町農業委員会

- ・ 現在は、農家として農地を守るために機械（燃料）を使ったり、出荷する野菜の保冷に電気を使っている。本委員会の中で、農業分野でできる取組みを勉強をさせていただきたい。

○富士見森のオフィス

- ・ 森のオフィスでは、いろいろな地域からの移住者の方が多いので、まずは富士見町のゴミ分別ルールを徹底してもらう取組みを行っている。
- ・ ふじみまち産業振興センターの取組みとして、昨年度、事業者用のCO2排出量可視化ツール（Carbon Dashboard）を開発した。現在は、これを利用する企業を募集している。

議事録

6. (3) 意見交換

○富士見まちづくりラボ

- ・富士見まちづくりラボは、こどもの未来をかんがえる会、富士見町商工会、合同会社きざしとのコンソーシアム組織で、エネルギー、森・食などの地域経済循環を促すまちづくり活動を行っている。
- ・地球温暖化対策については、町内の太陽光発電のマップ化及び土砂災害警戒区域のマップとの組み合わせ、地域経済分析、50年の森のビジョンを考えるプラットフォームを作っている。
- ・富士見町のゼロカーボンを考えていく上では、電気だけでなく、熱を再エネに変えていくことも重要で、森林整備の観点からもバイオマスエネルギーも重要。

<アドバイザー講評>

- ・クレジットを使用したCO2削減はトータルでは下がらない。もちろんそれがいけない訳ではないが、例えば、今は未開拓のCO2削減量やCO2吸収量に富士見ルールを設けて、富士見ブランドのようなものにできれば面白いと思う。
- ・富士見町でも先進的な取組みがたくさんあると思うので、それを町内だけでなく広く発信することでそれがブーメランとなって戻ってくることがある。面白い取組みがあれば、どんどん発信していくことが大事である。

